

令和8年度10月号

# めいか

令和8年9月30日  
文京区立明化幼稚園

## ワクワク心が動き出す

園長 西郡 千晴

年長組があらかわ遊園地遠足に行った経験を生かして遊園地を作りました。題して『めいかきらきらゆうえんち』です。台車に段ボール箱を貼り付け、絵の具で着色します。年少組、年中組の頃から好きな遊びで、空き箱などを組み合わせて作る楽しさを十分に味わってきた子どもにとっては、力を発揮するチャンスです。遊園地ごっこは、ただ毎年やっているから行うというものではありません。この時期の年長児にとって協同的な学びに向かう機会を作るのは、他者と一緒に一つの目的に向かい、考え、自分の意見を表し、同じグループの友達と力を合わせて作り上げる楽しさを味わいます。年長同士で乗り合う試乗会では互いに遊ぶことを楽しみ、お客役として気が付いたことを伝え合い、問題点を改善してオープンします。年下の友達をお客さんとして迎え、相手に伝わるように案内したり安全を確認して乗り物を動かしたりすることや、同じグループの友達と声を掛け合い、力を合わせたからこそもてる満足感。数日かけて作り、成功させたからこそ味わうことができる達成感。そして、相手が喜んでくれることを自分も嬉しいと感じる体験は、豊かな心情の成長を促す大きな栄養源となることでしょう。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち「健康な心と体」「共同性」「道徳性、規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「数量、図形、標識や文字への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」など総合的に育まれることが期待される活動です。そしてなにより活動の原動力は、子どもたちが自らワクワクする気持ちであって欲しいと願っています。ワクワクする気持ちにつながるように教師は、遊園地遠足で子どもたちと一緒に思い切り楽しく遊び、「幼稚園に遊園地があったら最高に楽しそうだね」と幼児が作りたくなる気持ちを盛り上げ、製作過程では「すごい！〇〇さん、いいことに気が付いたね」と自己有用感をくすぐり、「こっちは〇〇さんね、そっちは△△さんをお願いしたんだね」と役割分担を確認しながら、それぞれの自己有用感をもてるようにします。楽しい活動であれば、思わず心が弾んで、自分でも思っていた以上の力に出合うことも多くあります。そしてこの大きな課題活動を終えると、心も体もひとまわり大きくなる姿がみられることでしょう。

